

『海辺のカフカ』の「ナカタさん」に関する役割語

—台湾における村上文学の翻訳調査—

尾形 知世*・矢橋 知枝**

福井大学語学センター*・仁愛大学人間学部**

The Role Language of Mr. Nakata in Murakami's *Kafka on the Shore*:

A Translation Survey on His Literary Works in Taiwan

Tomoyo OGATA* & Chie YAHASHI**

Language Center, University of Fukui*・Faculty of Human Studies, Jin-ai University**

村上春樹文学の人気は台湾でも高く、80年代より多くの翻訳作品が出版されてきた。役割語には聞き手に話し手の人物像をステレオタイプ的にイメージさせる働きがあり、村上作品の登場人物の独特な発話は役割語の翻訳研究の対象となっている。本稿の目的は、第一筆者が台湾・輔仁大学大学院留学中に実施した翻訳調査に基づき、台湾・中国語版読者の感じる「ナカタさん」の人物像と役割語の関係を探ることである。『海辺のカフカ』(2002)の副主人公「ナカタさん」の日英翻訳調査を行った山木戸(2019)より分析枠組みを構築し、村上春樹の代弁者とされる翻訳家の頼明珠による中国語版を翻訳調査の言語資料として用いた。中国語版「ナカタさん」の人物像とその役割語について量的・質的分析を行った結果、中国語版読者への「老人らしさ」「礼儀正しさ」の伝達度と関連する役割語を指摘し、日本語・日本文化の観点より敬語の翻訳における問題点を示唆できた。

キーワード: 村上春樹, 翻訳, 役割語, 台湾

1. はじめに

村上春樹の作品は多言語に翻訳され、国境や地域を超えて多くの読者を獲得している。しかし、「原作が翻訳文学となって異郷の時空に現れるとき、その受容の流れは原作の母国とは異なり、さまざまな文化現象を派生していく」と張(2009: 36)が述べるように、翻訳作品の受容の様相が現地の文化的特性を物語るといっても過言ではない。よって、村上作品の受容の流れも国ごとに異なり、日本における人気と海外における人気を同等とみなすことはできない。

村上春樹作品では、魅力的な登場人物がしばしば物語に登場する。村上本人も、小説作品において「物語をどんどん前へ進めていく」独特な雰囲気を持つ登場

人物を、「作品の中心——あるいは中心の近くに」据える重要性を述べている(村上2015: 231)。村上春樹が登場人物を書き分ける上で用いる発話の言語的特徴こそが、小説の読者に強い印象を与える大きな要因といえよう。しかし、この人物造形に関わる特徴的な発話特性は、翻訳版を読む読者に作者の意図通りに伝わっているだろうか。

本研究の出発点は、台湾でも人気の作家である村上春樹の長編小説『海辺のカフカ』(2002)の翻訳研究を通し、村上春樹文学の海外受容を台湾の文化的特性に基づいて言及した尾形・矢橋(2020)および尾形(2021)であった。『海辺のカフカ』では、15歳の少年「カフカ」と60歳すぎの男性「ナカタさん」の二

人をそれぞれ主軸とした物語が章ごとに交互に展開され、最後には二人の物語が交わり、クライマックスを迎える。「ナカタさん」のプロフィールとして、次のように説明されている。

(1) ナカタさんのプロフィール

偶数章の主人公。60歳すぎ。子供の頃、疎開先で「お椀山事件」に遭遇し、以来読み書きの能力と記憶を失うが、それ以前は秀才だった。現在は都から補助を受けながら暮らしている。猫と会話ができるため「猫探しの名人」に。佐伯さんと同じく影が半分しかない。すこし風変わりなしゃべり方をし、ウナギが好物。亡父は大学で金融論を教える先生、2人の弟は伊藤忠と通産省に勤めている。(洋泉社編集部編 2013: 69)

この物語の副主人公の「ナカタさん」は、独特の話し方と雰囲気ですべての読者をひきつける。「ナカタさん」の発話の例を(2)に示す。なお、[]内に原作名(上巻・下巻)と頁数を示した。

(2) ナカタさんの発話例

a. 「その通りであります。覚えなくてはならないことが多いというのは、全く不便なものであります。…」

[カフカ(上) 78-79]

b. 「…しかしナカタにはこういうしゃべり方しかできないのです。普通にしゃべりますと、こうなります。頭が悪いからです。昔から頭が悪かったわけではないのですが、小さい頃に事故にあいまして、それから頭が悪くなったのです。字だってかけません。本も新聞も読めません」

[カフカ(上) 79]

山木戸(2019: 26-27)でナカタさんの話し方の特徴として、「であります」の使用や、自称詞としての姓「ナカタ」の使用などを挙げている。この(2)の発話例の下線部(筆者追加)からも、「ナカタさん」の少し風変わりな人物像を感じることは容易であろう。

本稿では台湾版中国語訳『海辺のカフカ』に関する翻訳調査を通じ、中国語版の「ナカタさん」の役割語と人物像との関係性に焦点を当てて論じる。

2. 村上春樹と翻訳

本章では、村上春樹文学の台湾での受容について、また、役割語と翻訳について概観する。

2.1 台湾での村上春樹文学

村上春樹文学の翻訳版が1985年に初めて台湾にもたらされて以降、四半世紀をかけてその影響力は高まり続けてきた。長編・短編・エッセイなどを含むほぼすべての村上春樹作品が、台湾で中国語に翻訳・出版されており、村上春樹の人気は「村上現象」「村上効果」などと評され、その影響を受けた作家や文化人・芸能人が多く存在する(横路2020: 311-313)。また、張(2009: 35)によれば、2007年7月の台湾の全国高校入試の国語で、村上春樹の小説作品の翻訳版が採用されたという。村上作品がいかにか台湾に普及しているかを物語る出来事といえよう。

台湾で村上春樹作品の翻訳に携わる女性翻訳家の頼明珠は、台湾における村上春樹の代弁者としての地位を確立している。台湾において版權をめぐる法律が未整備だった2000年代初頭までは、複数の出版社から別々の翻訳者による同一作品の訳本が市場に出ていた。しかし、時報出版が関連法の整備によって版權を独占するようになって以降、頼明珠が長編・短編・エッセイを含む多くを現在に至るまで手掛けてきた。民主化が進んで日本文化が大量に流れ込んだ1990年代の台湾社会において日本語から中国語への大量の翻訳が行われる中、日本語の影響を受けた翻訳調ともいえる頼明珠訳が台湾で受け入れられる土壌が作られていたのであろう。

頼明珠の翻訳観と独特の直訳調の文体は、これまで他の中国語訳版との比較研究の対象となってきた。原文に沿うような語順で成語をなるべく避けた簡潔で明快な中国語が頼明珠の訳文の特徴であり、賛否両論あるものの、中国語繁体字圏である台湾・香港で多くの支持を得ている。なお、頼明珠による『海邊的卡夫卡』(2003)は『海辺のカフカ』(2002)の繁体字中国語版であり、中国語圏における最初の翻訳版である。台湾の人口比率ではミリオンセラーに相当する人気作品となり、現在でもその人気は根強いという(小森2006: 14)。

2.2 役割語と翻訳

本稿では、村上春樹作品独特の世界観とその翻訳に深く関わる言語特徴として「役割語」を取り上げる。役割語研究の第一人者である金水敏によれば、「役割語」は次のように定義される。

(3) 「役割語」の定義

ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを役割語と呼ぶ。（金水 2003: 205）

つまり、役割語とは言語的ステレオタイプともいえよう。この役割語は通言語的に存在し、各言語において独特な表現手段があるという見方が通例である。しかし、金水（2015）は、日本語の人称詞や文末表現の多様性が役割語の構成要素となる点を挙げ、他の言語と比べて役割語のバリエーションが豊かであることを指摘する（129）。よって、役割語の表現方法が言語間で異なることは、翻訳の際に留意されるべきである。

金水他（2018a）によれば、役割語の翻訳問題は作品の価値やメッセージを伝える上で重要なウェイトを占め、村上作品は「多くの言語に翻訳され、日本人作家の代表とみなされることも多く、日本語作品の翻訳の質を議論する上でも、その影響力の高さから言って申し分ない」という（34）。作品中には特徴的な登場人物が多く登場し、幅広い言語で役割語の翻訳をめぐる対照分析の可能性を有する。しかし、役割語をいかに他の言語に翻訳するべきかという翻訳手法に関する研究はまだ少なく、金水が2017年に立ち上げた「村上春樹翻訳調査プロジェクト」（金水他 2018b; 2019; 2020; 2021）のさらなる進展が待ち遠しい。

3. 台湾での翻訳調査

本章では、第一筆者が台湾新北市・天主教輔仁大学 跨文化研究所修士課程留学時に実施した翻訳調査について概説する。なお、この翻訳調査自体は、尾形(2021)のために行ったものである。

3.1 調査の概要

本調査は、『海辺のカフカ』の「ナカタさん」の特徴的な話し方による少し風変りな人物像が中国語版の読者に伝達されているのかを確かめることを目的とし、2019年8月から2019年9月にかけて台湾で実施した。

調査方法として、調査票を回答者に配布し、配布時に30分程度でその場で回答もしくは後日提出によって回収した。回答者は20代から50代までの22名（男性5名 女性17名）の輔仁大学関係者であり、大学院在學生（跨文化研究所翻訳学修士課程（中日翻訳通訳および中英翻訳通訳コース）、大学院修了生（外国語学部日本語文学科大学院修士課程）、学部生（外国語学部日本語文学科）、職員（跨文化研究所および日本語文学科）にそれぞれ回答を依頼した。

3.2 調査票

調査票は全6頁で構成されており、「一般質問」（基本資料）1頁分と「翻訳に関する質問」（閱讀資料及問題）5頁分であった。

「一般質問」は8項目（①～⑧）からなる。回答者のプライバシー保護のため記名欄は設けず、年齢群・性別を問う項目（①②）を設けた。また、多文化・多言語という台湾の社会事情・言語事情を踏まえ、出身地・海外滞在経験・母語を確認する項目（③④⑤）、日本語や他の言語の習熟度と文学の読書頻度を問う項目（⑥⑦⑧）を設けた。

「翻訳に関する質問」では、山木戸（2019）の分析枠組みを基に、「役割語」「キャラクター言語」を含む調査項目として「老人らしさ」「礼儀正しさ」「軍隊・忠誠心」「純粋さ・幼さ」「言語能力」を問う選択式（5択）および記述式の合計15項目を設けた（（山木戸 2019）の詳細については4.1参照）。また、頼明珠訳『海邊的卡夫卡』（上・下）（2003）の本文より質問項目に関わる場面（a）（b）（c）について、該当箇所の本文を抜粋して提示した。各場面と調査事項の対応を表1に示した。

場面選定の際、ナカタさんの発話の特徴が顕著であること、また、回答者に負担をかけない情報量であることを特に考慮した。また、場面（a）（b）（c）について回答者に文脈理解を促すため、調査票には中国語版に

表1 場面 (a) (b) (c) 詳細

場面	本文の箇所	調査項目
(a)	上巻第6章*	「老人らしさ」「礼儀正しさ」「軍隊・忠誠心」
(b)	下巻第38章	「純粹さ・幼さ」
(c)	上巻第10章	「言語能力」

※ナカタさん初登場

表2 翻訳に関する質問項目と質問形式

場面	質問項目	回答形式
(a)	(1) 話し方に老人らしさがあるか	選択式
	(2) 該当部分に下線を引き理由を説明	記述式
	(3) 話し方に若者が使用しない言葉があるか	選択式
	(4) 該当部分に下線を引き理由を説明	記述式
	(5) 話し方に礼儀正しさがあるか	選択式
	(6) 礼儀正しさを感じる理由	記述式
	(7) 話し方に軍隊の低位の者が話す様子・忠誠心を感じるか	選択式
	(8) 軍隊らしさがあると感じる理由	記述式
(b)	(9) 「～公」の使用に受ける印象	記述式
(c)	(10) 「與會」の使用に受ける印象	記述式
(a) (b) (c)	(11) 話し方に風変わりさ・奇妙さがあるか	選択式
	(12) 風変わり・奇妙と感じる理由	記述式
	(13) 自分を名前で呼ぶ人物に受ける印象	記述式
	(14) 話し方に幼さがあるか	選択式
	(15) 幼さを感じる理由	記述式

おける該当箇所を前後の段落とともに提示し、表1に関する場面説明も中国語で加えることで情景をイメージしやすくなるよう配慮した。各場面と、質問項目(選択式・記述式)との対応をまとめたのが表2である。

質問票には選択式と記述式の回答を設定した。選択式では、ナカタさんの人物像にある特定の印象があるかについて5種類の選択肢(「とてもある」「ややある」「わからない」「あまりない」「全くない」)から選び、記述式ではその印象が感じられる場合(「とてもある」「ややある」を選択の場合)にその理由を、それぞれ回答するように設定した。

4. 中国語版ナカタさんの翻訳分析

本章では、『海辺のカフカ』の「ナカタさん」の人物像が、発話特徴を通じて中国語訳版の読者へ伝達されているかについて翻訳分析を行う。

4.1 先行研究(山木戸 2019)

ナカタさんの「役割語」に焦点を当てた中国語版分析のため、山木戸(2019)に基づいて中国語版の分析枠組みを確立する。山木戸(2019)は、村上春樹作品をめぐる日英の役割語研究であり、『海辺のカフカ』の副主人公ナカタさんを取り上げて「役割語」およびその類似概念である「キャラクター言語」の2種類に分類し、ナカタさんの話し方の特徴を論じた。英語版として Philip Gabriel 訳の *Kafka on the Shore* を取り上げ、英語母語話者に対する翻訳調査を実施した。

山木戸(2019: 22, 34)によるナカタさんの発話の特徴は表3のとおりである。

下記の表3では、山木戸(2019)が論じるナカタさんの発話での「役割語」および「キャラクター言語」が読者にもたらすナカタさんの印象をまとめた。日英翻訳調査の結果、英語母語話者にとっては自然な話し

表3 ナカタさんの発話の特徴

言語変種	言語特性	人物像(属性)	役割語
役割語	人物像とステレオタイプ的に結びつく言葉づかい	初老らしさ	ごく僅かの「老人語」の使用
		礼儀正しさ	敬語の使用
キャラクター言語	「すこし風変りな」印象を与える話し言葉	聞き手への敬意, 忠誠心, 服従の念	「であります」の使用
		聞き手への敬意, 忠誠心, 服従の念	自称詞としての「ナカタ」の使用
		純粹で世間を知らない	「幼児語」・「～さん」の使用
		一般的な大人とは異なる言語能力・言語運用	カタカナ表記の使用

【出典】 山木戸 (2019: 22, 34) を基に作成.

言葉に訳されている英語版のナカタさんではあるものの、その風変りさを示唆する発話特徴を見出すことができた、と結論付けられている(山木戸 2019: 49)。よって、山木戸 (2019) は、ナカタさんの役割語の英語翻訳調査を通じ、村上春樹の英語圏における受容を示唆した点で評価できよう。

4.2 分析手法

役割語とキャラクター言語について、金水 (2016) が「キャラクター言語」を下記のように定義して以降、同じ言語変種として扱われることはなくなった。

(4) キャラクター言語の定義

- 特定の社会的・文化的グループとの結びつきが認められるが、未だ言語共同体の中で「役割語」として広く認知されているとは言いがたい話し方。
- 既に存在する役割語の用法をずらして、本来の社会的・文化的グループには属さないキャラクターに適用されている話し方。
- 役割語の一種とも見られるが、当該の社会的・文化的グループのステレオタイプの表現というよりは、話し手の個性の表現として用いられている話し方。
- いかなる社会的・文化的グループにも対応しないが、キャラクターの物語上の役割から割り当てられた特殊な話し方。(金水 2016: 7-8)

よって、中国語版ナカタさんに関わる「役割語」と社会的・文化的ステレオタイプ的人物像を論じる本稿では、「キャラクター限定の話し方ではあるが役割語とは言えない話し方の類型」である「キャラクター言語」(金水 2016: 7) を分析対象からははずすこととした。

山木戸 (2019) では、英語版ナカタさんの役割語が投影する人物像として「初老らしさ」「礼儀正しさ」を取り上げていた。台湾・中国語版読者にも伝わっているのかを検証するにあたり、本稿でも「礼儀正しさ」はそのまま採用する一方、「初老らしさ」を「老人らしさ」に変更した。中国語版読者にナカタさんの印象を問う際、「初老らしさ」に関わる役割語を指摘することが難しく、60歳すぎのナカタさんの年齢に沿う「老人らしさ」を示す「老人語」の有無を確認することにした。台湾で実施した翻訳調査の質問項目でも「老人らしさ」の人物像を問う設問になっており、本研究での分析に問題はないと判断した。

下記の表4であるが、「老人らしさ」として、訳文にも年長者らしい表現や古風な表現が見られれば、老人らしさは出るはずである。例えば、ナカタさんが腰を下ろすシーンで日本語の老人らしい言い方、「いやいや」などは「唉呀呀」(日本語では「いやあ、いやいや」にあたり年長者が用いる表現)と訳出されており、ナカタさんの年齢にあった古い言い回しが見られるといえよう。一方、「礼儀正しさ」については、中国語には日本語のような敬語という言語形式は存在しないものの、敬意を表す言語表現は存在する。例えば、

表4 中国語分析での検討事項

役割語	ナカタさんの役割語と人物像		検討事項
	「老人語」の使用による「老人らしさ」		「唉呀呀」(いやあ、いやいや)など年長者らしい表現により、伝わるか。
	敬語の使用による「礼儀正しさ」		「您」(あなた)など中国語の敬意表現により、丁寧さが伝わるか。

表5 中国語版での質問項目

質問項目	回答方式	役割語による人物像
(1) 話し方に老人らしさがあるか	選択式	「老人らしさ」
(2) 該当部分に下線を引き理由を説明	記述式	「老人らしさ」
(5) 話し方に礼儀正しさがあるか	選択式	「礼儀正しさ」
(6) 礼儀正しさを感じる理由	記述式	「礼儀正しさ」

ナカタさんの発話には「你」(あなた, きみ)より丁寧度の高い「您」(あなた)が見られ, 中国語版読者にも丁寧さを感じられるのではないだろうか。

以上の検討事項を踏まえ, 台湾での翻訳調査データを分析・考察することにした。輔仁大学関係者に実施した翻訳調査票における質問事項(全15項目)より, 「老人らしさ」「礼儀正しさ」の印象に限定した質問項目の「選択式」「記述式」をそれぞれ選定した。

分析に際し, 選択式回答「(1) 話し方に老人らしさがあるか」および「(5) 話し方に礼儀正しさがあるか」の集計結果に基づき, 中国語母語話者の読者にナカタさんの役割語が示す人物像が伝達されているかを検証した。また, 記述式回答「(2) 該当部分に下線を引き理由を説明」および「(6) 礼儀正しさを感じる理由」より, 回答者がその人物像を感じた言語キーワードを具体的に検討することで考察を行った。

4.3 分析結果

本節では, 本分析の結果を量的分析と質的分析の観点より論じる。

4.3.1 量的分析

中国語版ナカタさんの人物像を示す「老人らしさ」および「礼儀正しさ」に関して量的に概観するため,

次のまとめ表を作成した。その際, 「とてもある」および「ややある」を合算して役割語がもたらすステレオタイプの人物像を「感じている」, 「あまりない」および「全くない」を合算して役割語がもたらすステレオタイプの人物像を「感じていない」とし, 「わからない」はそのまま集計した。

役割語のもたらす人物像について, 14名(64%)の回答者がナカタさんの話し方に「老人らしさ」を, 21名(95%)の回答者がナカタさんの話し方に「礼儀正しさ」をそれぞれ感じていることが指摘できた。よって, 中国語版ナカタさんの役割語「老人らしさ」も「礼儀正しさ」も読者に伝わっているといえよう。特に, 「礼儀正しさ」を「感じていない」回答者が1名(5%)のみであり, その伝達度が非常に高いことがわかった。

では, 次の表7に基づき, 各役割語の与える人物像の詳細を検討してみよう。

「老人らしさ」を「感じている」14名(64%)では「ややある」が13名(59%), 「感じていない」7名(31%)では「全くない」2名(9%)だった。役割語が伝達するナカタさんの「老人らしさ」とは, 中国語版読者にとって漠然としたものだったといえる。一方, 「礼儀正しさ」を「感じている」21名(95%)では「とてもある」12名(55%)である上, 「感じていない」1名(5%)も「あまりない」のみだった。従

表6 中国語版ナカタさんにおける人物像まとめ表

役割語による人物像	感じている	感じていない	わからない	計
(1) 老人らしさ	14 (64%)	7 (31%)	1 (5%)	22 (100%)
(5) 礼儀正しさ	21 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	22 (100%)

表7 中国語版ナカタさんにおける人物像詳細表

役割語	とてもある	ややある	わからない	あまりない	全くない	計
(1) 老人らしさ	1 (5%)	13 (59%)	1 (5%)	5 (22%)	2 (9%)	22 (100%)
(5) 礼儀正しさ	12 (55%)	9 (40%)	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	22 (100%)

って、台湾・中国語版読者にとって、ナカタさんの人物像「老人らしさ」は原作に劣るとはいえそれなりに伝達されていたが、「礼儀正しさ」は原作通りに明確に伝達されていた。

4.3.2 質的分析

中国語版ナカタさん翻訳調査に関して64%の回答者が「老人らしさ」を感じ、95%の回答者が「礼儀正しさ」を感じていた。本項では、中国語母語話者は、ナカタさんの発話に見出した「役割語」について、記述式回答に基づいて論じていく。

4.3.2.1 老人らしさ

60歳すぎのナカタさんの「老人らしさ」について、中国語版読者は具体的にどの発話からその情報を感じ取ったのだろうか。記述式回答では、回答者にナカタさんの言葉に「老人らしさ」を感じる場合に、その発話箇所を下線で示して理由を述べてもらった。その回答をまとめたのが表8である。

表8の「箇所」は回答者が下線部を引いた該当箇所の中国語版(原作)、「理由」はその箇所を指摘した理由(第一著者による日本語訳)、「分類」はその指摘内容が役割語としての発話の「表現」と発話の「内容」のどちらに関わるのか、「回答」はその同じ指摘があった回数、

をそれぞれ示している。なお、記述式回答からの集計であり、「回答」数は回答者の全数とは一致しない。

表8より、発話の表現に関する①④が複数回の指摘を受けており、中国語版ナカタさんの「老人らしさ」に関わる役割語として機能していると思われる。

最も指摘が多かった①は、中国語版ナカタさんが使用する「唉呀呀」(日本語では「いやいや」という感嘆詞に関することである。以下に原文とともに例を示す。なお、[]内に原作を「カフカ」、中国語訳版を「カ夫カ」とし、それぞれの頁数を記した(下線は筆者)。

(5) ①唉呀呀

a. 「唉呀呀・我從早晨6點過後就一直走到現在。」

[カ夫カ(上)65]

b. 「いやいや、朝の6時過ぎからずっと歩いておりました」

[カフカ(上)77]

訳文(5a)の「唉呀呀」は原文(5b)の「いやいや」にあたるが、訳文の中国語表現は聞き手に年配の印象を与えるといい、「唉呀」の方がやや若者らしさを感じられるとの意見があった。

同様に複数回指摘を受けた④に付いても、訳文・原文を次に示す。

表8 「老人らしさ」を感じる箇所と理由

箇所	理由	分類	回数
① 「 <u>唉呀呀</u> 」(いやいや)	「年長者が疲れた時に口にする」	表現	8
② 「像我中田這樣頭腦不好的人、…」(ナカタのような頭の悪い人間にも、…)、「要記得就很困難了」(覚えるのに困ります)	「物覚えが悪いなどの説明」	内容	7
③ 「 <u>我從早晨6點過後就一直走到現在。</u> 」(朝の6時過ぎからずっと歩いておりました)、「有點走累了。」(いささか歩き疲れました)	「苦労や身体の疲れの訴え」	内容	7
④ 「今天天氣相當好啊」(なかなか良いお天気でありますね)、「您說這天氣會變嗎?」(お天気は続きますか?)	「若者ならば『相當好啊』よりも『很好』『好好』を使う」	表現	3
⑤ 「不過如果各種事情都順利的話，總算能像這樣跟您說話。」(いろいろなことがうまくいけば、なんとかこのようにお話することができます)	「丁寧または多すぎる説明量」	内容	1
⑥ 「您說這天氣會變嗎?」(お天気は続きますか?)	「天気の話で会話を切り出す」	内容	1
⑦ 「跟他談了一下話這樣子、…」(というふうに…)	「『這樣子』は冗長な表現で若者は使わない」	表現	1
⑧ 「我中田」(ナカタ)	「日本の高齢者らしい謙虚さ」	表現	1
⑨ 「您貓先生」(猫さん)	「ねこに『您』を使う几帳面さ」	表現	1
⑩ (明示なし)	「大陸の中国語っぽい話し方」	表現	1

(6) ④相当好啊

- a. 「今天天氣相當好啊。」 [卡夫卡 (上) 64]
 b. 「なかなか良いお天気でありますね」
 [カフカ (上) 76]

この(6a)「相当好啊」(とても良いですね)は、ナカタさんが初対面の猫に対して天気の話で会話を切り出す際の原文(6b)「なかなか良い~でありますね」に対応するが、比較的古風な言い回しであるとの指摘があった。よって、中国語版ナカタさんが話す比較的古風な表現が役割語として機能し、ナカタさんの「老人らしさ」を中国語版読者に伝達することに成功している。

4.3.2.2 礼儀正しさ

ナカタさんの「礼儀正しさ」に関し、回答者22名の内、21名がナカタさんの「礼儀正しさ」を感じており、1名のみが「あまり感じられない」と回答した。では、95%にあたる回答者は、中国語版ナカタさんのどのような発話表現を「礼儀正しさ」を示す役割語として認識したのだろうか。

回答者による記述内容をまとめたのが表4である。「礼儀正しさ」に関する記述式回答では、原文の敬語と中国語の敬意表現との等価的な翻訳に関する指摘を得るだけでなく、「礼儀正しさ」に関わる他の要素についても広く回答を得るために、「老人らしさ」とは異なって「理由」に関する自由記述のみを設定した。

表9より、発話の表現に関する⑪⑫⑬⑮⑯が回答者から複数回の指摘を受けており、中国語版ナカタさんの「礼儀正しさ」に関わる役割語として機能していると思われる。

回答者の挙げる理由に共通する点として、中国語における敬意表現・丁寧表現の使用が「礼儀正しさ」を示す役割語として機能していることが挙げられよう。中国語において、「您」は二人称「你」の敬称(あなた)であり、「先生」は男性への敬称(〇〇さん)である。⑪「您」の使用については回答者から20回の指摘があった。該当箇所を原文とともに示す(下線は筆者)。

(7) ⑪您および⑫先生

- a. 「請問，我可以在這裡坐一下嗎？」…
 「那麼我可以稱呼您貓先生為大塚先生嗎？」
 [卡夫卡 (上) 65]
 b. 「あの、ここにちょっと腰をおろしてかまいませんか？」…
 「それでは猫さんのことを、オオツカさんと呼んでよろしいでしょうか？」 [カフカ (上) 77-78]

中国語版ナカタさんの発話における「⑪您」こそが、読者にとってナカタさんの「礼儀正しさ」を伝達する役割語であることは明白である。また、同じく猫に対して使用される「⑫先生」も、同じく「礼儀正しさ」の役割語であることに疑いはなかろう。

また、「⑬請問」および「⑯那麼我可以…嗎？」のように、中国語版ナカタさんの「礼儀正しさ」について、文法の側面からの指摘も見られた。

(8) 「⑬請問」および「⑯那麼我可以…嗎？」

- a. 「請問，我可以在這裡坐一下嗎？」…
 「那麼我可以稱呼您貓先生為大塚先生嗎？」
 [卡夫卡 (上) 65]

表9 「礼儀正しさ」を感じる理由

理由	分類	回答数
⑪ 「『您』を使用・多用する」「猫に対して『您』を用いる」	表現	20
⑫ 「『猫先生』と猫に『先生』(敬称：～さん)を付ける」	表現	6
⑬ 「『請』『請問』を使用する丁寧な依頼文」	表現	6
⑭ 「何事の動作もまず相手の猫に対して同意を得る」	内容	5
⑮ 「『謝謝您』『謝謝』など丁寧にお礼を述べる」	表現	2
⑯ 「『那麼我可以…嗎？』(許可を求める：～てもいいでしょうか)」	表現	2
⑰ 「何事も丁寧に細かく説明しようとする」	内容	1
⑱ 「自らが先に名乗る」	内容	1

b. 「あの、ここにちょっと腰をおろしてかまいませんか？」…

「それでは猫さんのことを、オオツカさんと呼んでよろしいでしょうか？」 [カフカ (上) 77-78]

上記 (8a) の「請問・我可以～嗎?」「我可以～嗎?」は、原文 (8b) の「かまいませんか」「よろしいでしょうか」に対応している。許可を求める表現でも「我可以～嗎?」は比較的丁寧な表現であり、礼儀正しく問う際の「請問」(すみませんが…) を添えれば丁寧さの度合いも増す。読者はこのような表現の使用にナカタさんの礼儀正しさを感じるであろう。二人称の「您」をはじめ、中国語における敬意表現を多用することでナカタさんの礼儀正しさは強く読者に印象付けられているようだ。

以上より、中国語版ナカタさんの「礼儀正しさ」が、敬意表現・丁寧表現を役割語として伝達されていたことが指摘できた。

5. 中国語版ナカタさんの役割語と言語と文化への理解

本章では、ナカタさん翻訳調査から得られた記述式回答を基に、中国語版ナカタさんの人物理解に関わる役割語と回答者の日本語・日本文化に関わる属性の観点から考察する。

5.1 日本語学習歴と日本文学の読書習慣

『海辺のカフカ』翻訳調査(役割語・キャラクター

言語)における全回答者の日本語学習歴について、下記の表 10 にまとめた。学習期間の選択肢については、輔仁大学大学院での指導教員と協議の上、台湾の高等教育における日本語教育事情を考慮して設定した。

ナカタさん翻訳調査全回答者 22 名において、役割語・キャラクター言語に関する記述式回答で日本語・日本文化の観点から言及した回答者は 6 名 (27%) であり、日本語学習歴 3 年以上 5 名 (83%) および 1 年未満 1 名 (17%) であった。

次いで『海辺のカフカ』翻訳調査(役割語・キャラクター言語)における全回答者の日本文学の読書習慣について、下記の表 11 にまとめた。

ナカタさん翻訳調査全回答者 22 名において、役割語・キャラクター言語に関する記述式回答で日本語・日本文化の観点から言及した回答者は 6 名 (27%) であり、「よく読む」3 名 (50%) と「少し読む」3 名 (50%) であった。

次の表 12 では、翻訳調査全体(役割語・キャラクター言語)の記述式回答における中国語版ナカタさんの人物像「老人らしさ」「礼儀正しさ」についての日本語・日本文化の観点からの言及をまとめた。

翻訳調査全体の記述式回答では、日本語・日本文化に関する指摘が様々な視点から行われていた。そこで、本稿の目的である中国語版ナカタさんの「役割語」に関する記述式回答のみに限定して検討することにした。その結果、「日本語学習歴」3 年以上 2 名が回答者として該当し、「日本文学の読書習慣」としては「よ

表 10 日本語学習歴と日本語・日本文化への言及対照表

日本語・日本文化への言及	学習期間					合計
	3 年以上	2 ~ 3 年	1 ~ 2 年	1 年未満	なし	
あり	5	0	0	1	0	6 (27%)
なし	6	1	1	2	6	16 (73%)
計	11	1	1	3	6	22 (100%)

表 11 日本文学の読書頻度と日本語・日本文化への言及対照表

日本語・日本文化への言及	日本文学の読書頻度				合計
	よく読む	少し読む	読まない	未記入	
あり	3	3	0	0	6 (27%)
なし	4	7	5	0	16 (73%)
計	7	10	5	0	22 (100%)

表 12 翻訳調査全体における「老人らしさ」および「礼儀正しさ」への言及

日本語・日本文化への言及内容	
「老人らしさ」	「礼儀正しさ」
感嘆詞の使用 (3) 天気の話 (2) 回りくどい説明 時間をかけた説明 「您」の使用 猫への「您」の使用 自称詞「ナカタ」の使用 大陸中国語らしさ 日本の謙虚で礼儀正しい老人 謙虚さ 記憶力の話	「您」の使用 (12) 丁寧な依頼表現「可以～？」 (3) 猫への「先生」の使用 (3) 「請」の使用 (2) 「先生」の使用 (2) 猫への「您」の使用 相手への細かな説明 (2) 「謝謝」の使用 行動に際する猫への意向確認 自称詞「ナカタ」の使用 相手への意向確認

※ () は複数回の言及を意味する

表 13 役割語回答者の日本語学習歴・日本文学読書頻度・社会的属性

回答者	日本文学の読書頻度	日本語学習歴	日本語・日本文化に関わる社会的属性	人数 (%)
A	すこし読む	3年以上	・ 輔仁大学大学院修士課程大学院生 ・ 中日通訳家 ・ 翻訳家の訓練を受けている ・ 日本留学歴 (京都 1年2か月) がある	1 (50%)
B	よく読む	3年以上	・ 輔仁大学大学院修士課程大学院生 ・ 中日翻訳家の訓練を受けている ・ 日本語ニュース記事の中国語翻訳に携わる	1 (50%)
計				2 (100%)

く読む」1名「少し読む」1名となった。この2名に回答者に関する情報について、表 13 で提示する。

本稿の分析対象である「老人らしさ」「礼儀正しさ」を伝達する役割語について、回答者 A は下記の (9) のように指摘している。

(9) ナカタさんの「老人らしさ」への記述式回答

- 覺得有日本老人特有的，帶有謙虛和尊敬態度的稱謂用法。(畫線部位「我中田」「您貓先生」)
- 日本の老人に特有の，謙虚さと相手への敬意が込められた言い方だと感じる。
(下線部「ナカタ」「猫さん」)

(9b) の「日本の老人に特有の，謙虚さと相手への敬意が込められた言い方」については、日本留学時に回答者が会った「老人」と重ねて回答しているのかもしれない。「謙虚」と「相手に敬意を込める話し方」を日本の老人特有の性質と結びつけることで、中国語版ナカタさんを日本人として理解しているのであろう。

う。さらに、ナカタさんの「礼儀正しさ」に関して、この回答者は次の (10) のように回答した。

(10) ナカタさんの「礼儀正しさ」への記述式回答

- 對對方用敬稱和說明清楚的部分。(選擇「非常有」)
- 相手に敬称を用いたり，細かく説明するところ。
(「とてもある」を選択)

ナカタさんの「礼儀正しさ」について「とてもある」とした上で、(10b) の「相手に敬称を用いる」および「細かく説明する」をその理由として挙げている。特に、中国語版ナカタさんの「細かく説明する」性質を、ナカタさんが作者村上春樹から与えられた「礼儀正しさ」という人物像に関連させていることで、日本語・日本文化への造形の深い回答者 A の視点が伺えよう。

中国語版ナカタさんの説明の仕方について、回答者 A が「細かく説明する」として肯定的に「礼儀正しさ」との関連で指摘した一方、回答者 B は次のように述べている。

(11) ナカタさんの「老人らしさ」としての「回りくどい説明」

- a. 「這様子」・句子比較冗長 or 多餘・不像年輕人。(畫線部位「這様子」)
- b. 「という具合に」は文がやや冗長，または不要なもの，若者らしくない。(下線部「という具合に」)

この(11b)「やや冗長，または不要なもの，若者らしくない」という指摘は，中国語版ナカタさんの説明の仕方が「回りくどい」ために否定的に「老人らしさ」と関連することを意味する。回答者 A と同様に日本語学習歴が3年以上であり，さらに「日本文学の読書習慣」として「よく読む」という回答者 B は，中日翻訳家の訓練を受けて日本語ニュース記事の中国語翻訳にも携わっている。日本文学を原作のまま鑑賞できる高い日本語力を有しているからこそ，原作における「少し風変わりな」ナカタさんという人物像が反映された中国語版において，ナカタさんの説明の仕方の「冗長さ」を好ましい「礼儀正しさ」ではなく，好ましくない「老人らしさ」を喚起する「回りくどさ」と結びつけたのではないだろうか。

回答者 A および回答者 B の有する3年以上の日本語学習歴と日本文学の読書習慣により，中国語版ナカタさんの説明の仕方に関して役割語との関わりから論じることが可能となったのであろう。一方，ナカタさんの説明の仕方について，回答者 A のように肯定的な「礼儀正しさ」とするのか，回答者 B のように否定的な「老人らしさ」とするのか，これは個々の回答者の日本と台湾の相違点への理解もしくは感性に因るのかもしれない。いずれにしても，日本語学習歴と日本文

学の読書習慣が，中国語版ナカタさんの人物像「老人らしさ」および「礼儀正しさ」に関わる役割語の特定に及ぼす影響について，「日本語・日本文化」の観点から行った記述式回答の考察より示唆することができた。

5.2 中国語版ナカタさんと敬意表現

「ナカタさん」の人物像「礼儀正しさ」が中国語読者にも明確に伝わっていた一方，この「礼儀正しさ」は原作とは異なり，中国語版ナカタさんは過剰に丁寧すぎる人物という印象が伝わったようである。中国語で敬意・丁寧さを表す際に用いられる敬意表現・丁寧表現がナカタさんの発話に見られる訳であるが，初対面の相手に対しての話し方だとしても「少々丁寧すぎる」という指摘があった。

以下の表 14 は，中国語訳版のナカタさんによる敬意表現への言及をまとめたものである。

この表 14 より，猫に対する「您」の使用，「您」の多用，感謝の言葉を含む丁寧な表現の不自然な使用，に対する指摘が多く見られ，中国語版読者は違和感を覚えていることがわかる。下記(10)は翻訳調査で用いた場面(a)である。

(10) 翻訳調査 場面 (a)

- a. 「您說這天氣會變嗎？…並不是每次，跟什麼樣的貓都能談話，不過如果各種事情都順利的話，總算能像這樣跟您說話。…我叫中田。貓先生，您呢？」

[カフカ (上) 64-65]

表 14 敬意表現に関わる言及

a	猫に「您」を使用するのは大げさ
b	自称「中田(ナカタ)」，「您猫先生(ねこさん)」は謙虚で相手に敬意を表する様子
c	「您」を使用するのは礼儀を重んじる高齢者らしい
d	猫に「您」を使用するのはとても丁寧
e	「您」を頻繁に使用する
f	ほぼ全発言に「您」を使用する
g	いつも「您」を使用する
h	「您」の使用，丁寧な依頼表現の使用は初対面だとしても一般的ではない
i	自分を低めている様子
j	礼儀正しさの度合いが著しく，わざとらしい
k	(動物や物に敬意を払う様子は) 非常に礼儀正しく奇妙

b. 「お天気は続きませんか?…いつでも、どのような猫さんとでもしゃべれるというのではありませんが、いろんなことがうまくいけば、なんとかこのようにお話をすることができます…ナカタと申します。猫さん、あなたは?」

[カフカ(上) 76-77]

この(10)が示すように、(10a)の中国語版では、猫に対する「您」の使用が見られる。しかし、原作である(10b)では、「ナカタさん」はやや変わった調子ではあるものの、あくまで自然な礼儀正しさを与える話し方をする人物であり、中国語版読者が違和感を覚えたような丁寧すぎて違和感を与える話し方ではない。

なぜ中国語版読者には、ナカタさんが過剰に丁寧な人物像として伝わったのであろうか。敬意表現の使用頻度の高さが読者に違和感を与える要因となったと考えられる。言語形式としての敬語を有する日本語と比べ、中国語では敬語表現で相手への丁寧さを伝達している。そのため、原作では自然な敬語使用であっても、その頻度をそのまま中国語訳に持ち込めば、中国語母語話者にとって大げさに感じられる原因となるのではないだろうか。この点については、中国語母語話者への日本語教育の場でも考慮すべき点ともなろう。

6. おわりに

本研究では、『海辺のカフカ』(2002)での「ナカタさん」に関し、日英翻訳調査を行った山木戸(2019)を分析枠組みとし、ナカタさんの人物像である「老人らしさ」および「礼儀正しさ」が、台湾の中国語版読者にも原作の意図通りに伝達されているのかを確かめた。村上春樹の代弁者とされる翻訳家の頼明珠による中国語版を言語資料とし、第一著者が台湾留学時に実施した中国語母語話者対象の翻訳調査に基づいて量的および質的分析を行った。

量的分析からは、回答者の64%は「老人らしさ」を、回答者の95%は「礼儀正しさ」をそれぞれ感じており、中国語版ナカタさんの人物像が中国語版読者に伝達されていることが明らかにできた。一方、翻訳調査の記述式回答に基づいた質的分析より、中国語版ナカタさんの「老人らしさ」の役割語として年配者が使用

する感嘆詞「唉呀呀」と「相当好啊」を、「礼儀正しさ」の役割語として「您」「先生」を、それぞれ指摘した。さらに、回答者の日本語学習歴および日本文学の読書習慣との対照により、回答者の日本語・日本文化に関する既知情報が村上春樹作品の解釈に深く影響していることを示唆できた。

本研究の翻訳調査回答者数は22名と多くはなく、あくまで台湾・天主教輔仁大学における村上春樹作品理解の一側面に触れたケーススタディである。しかし、コロナ禍以前の台湾で翻訳調査を実施できたことは、いま振り返れば大変貴重な経験であったといえよう。

村上春樹文学など日本文化受容に関する研究を今後進め、日本語と中国語における敬語・敬意表現運用の差異などに注目しつつ、中国語母語話者への日本語教育にも役立てていきたい。

謝辞

翻訳調査実施にあたり、天主教輔仁大学(台湾新北市)関係者の皆様には多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

第1次資料

村上春樹(2002)『海辺のカフカ(上・下)』新潮社

村上春樹(2003)『海邊的卡夫卡(上・下)』(頼明珠譯)時報文化出版

第2次資料

尾形知世(2021)「村上春樹作品の英語・中国語版における翻訳の諸問題—『海辺のカフカ』を中心に—」天主教輔仁大学跨文化研究所 修士論文

尾形知世・矢橋知枝(2020)「村上春樹の海外受容と翻訳事情—英語圏と中国語圏(台湾・中国大陸)の『海辺のカフカ(2002)』を例として—」『仁愛大学研究紀要 人間学部篇』19: 63-75.

金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
金水敏(2015)「役割語とその翻訳について」定延利之(編)『私たちの日本語研究—問題のありかと研究のあり方』朝倉書店 128-132.

金水敏(2016)「役割語とキャラクター言語」金水敏(編)『役割語・キャラクター言語研究 国際ワークショップ 2015』大阪大学大学院文学研究科 5-13.

金水敏編(2014)『<役割語>小辞典』研究社

- 金水敏他 (2018a) 「第40回研究大会ワークショップ 役割語・キャラクター言語から見た翻訳研究—村上春樹作品を中心に—」『社会言語科学』社会言語科学会20(2): 34-37.
- 金水敏他 (2018b) 『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (1)』大阪大学大学院文学研究科
- 金水敏他 (2019) 『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (2)』大阪大学大学院文学研究科
- 金水敏他 (2020) 『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (3)』大阪大学大学院文学研究科
- 金水敏他 (2021) 『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (4)』大阪大学大学院文学研究科
- 小森陽一 (2006) 『村上春樹論—「海辺のカフカ」を精読する—』平凡社新書
- 張明敏 (2009) 「台湾人の村上春樹—『文化翻訳』としての村上春樹現象」藤井省三編『東アジアが読む村上春樹』若草書房 35-67.
- 村上春樹 (2015) 『職業としての小説家』スイッチ・パブリッシング
- 山木戸浩子 (2019) 「ナカタさん(『海辺のカフカ』)の変わった話し方は英語でどのように翻訳されるのか」金水敏『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (2)』大阪大学大学院文学研究科 18-50.
- 洋泉社編集部編 (2013) 『村上春樹全小説ガイドブック』洋泉社
- 横路啓子 (2020) 「村上春樹は台湾でどのように受け入れられたのか」石田仁志・アントナン・ベシュレール(編)『文化表象としての村上春樹—世界のハルキの読み方』青弓社 304-314.

付録

調査票「文學翻譯調査」(於 天主教輔仁大学(台湾・新北市))

